

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 24 日現在

機関番号：34424

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25463654

研究課題名(和文) 学校保健室で養護教諭が用いる養護看護技術の構築

研究課題名(英文) Development of care nursing procedures and skills utilized by a teacher in charge of health education in a health room of schools

研究代表者

湯浅 美香 (Yuasa, Mika)

梅花女子大学・看護保健学部・講師

研究者番号：70583342

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では養護教諭養成課程における養護実習中に学校現場で養護教諭が用いる技術は、創傷管理技術カテゴリと 症状・生体機能管理技術カテゴリにある技術項目であることが明らかとなった。上記の2つの技術項目を学校の保健室で特に必要とされる技術と位置付け、これを「養護看護技術」とした。将来的に大学における養護教諭養成課程において、創傷管理技術カテゴリと 症状・生体機能管理技術カテゴリを中心としたカリキュラムを再考し、特に集中して学生をトレーニングし経験を積ませることで、学校現場において養護教諭が今まで以上に現場対応が可能となると示唆できた。

研究成果の概要(英文)：A teacher in charge of health education uses various skills at the school spot during the protective care training in a teacher-in-charge-of-health-education training course. This research indicates that the skills are categorized to two kinds, i.e., (1) Wound management engineering category, and (2) Condition and a living body functional management engineering category. We regarded the two above-mentioned skills as "Care nursing procedure". By reconsidering the curriculum consisting mainly of (1) Wound management engineering category, and (2) Condition and a living body functional management engineering category, concentrating especially in the future the students in the teacher-in-charge-of-health-education training course in a university will get training and making experiences as a school nurse. So that, we suggested that the school nurse will be suitable for the many cases which occur in a health room of schools.

研究分野：地域看護学

キーワード：養護技術 看護技術 学校看護 学校保健

## 1. 研究開始当初の背景

小学校、中学校、高等学校の養護教諭が保健室で使用する看護技術の使用項目・頻度を調査してその実態を明らかにし、今後の養護教諭養成教育で修得すべき看護技術項目を頻度別に体系化することを目的とした。学校に勤務する養護教諭の教育背景は多岐に渡り、中でも看護教育を受けた養護教諭の割合は高くない。近年、校内で発生する疾病、事故、災害への緊急、救命対応や児童生徒を取り巻く健康問題の多様化から、医学的知識に基づいた看護技術が養護教諭に求められる傾向があるため養護教諭に必要な看護技術項目の体系化が急務であると研究に着手した。

## 2. 研究の目的

本研究は小学校、中学校、高等学校の養護教諭が保健室で使用する看護技術の使用項目・頻度を調査してその実態を明らかにし、今後の養護教諭養成教育で修得すべき看護技術項目を頻度別に体系化することを目的とした。学校に勤務する養護教諭の教育背景は多岐に渡り、中でも看護教育を受けた養護教諭の割合は高くない。近年、校内で発生する疾病、事故、災害への緊急、救命対応や児童生徒を取り巻く健康問題の多様化から、医学的知識に基づいた看護技術が養護教諭に求められる傾向があるため養護教諭に必要な看護技術項目の体系化が急務である。保健主事や一般教諭、校長、保護者から最も求められている養護教諭の職務内容は救急処置であり、これは基本でありなおかつ重要な役割であるとしているが、調査によると、養護教諭の多くは救急処置において養護判断と対応に困難感を抱いているとしている。養護判断に関しては、養護教諭の経験年数にかかわらず、約9割以上のものが「困ることがある」としている。このような状況から、養護教諭が救急

処置や養護判断に自信を持ってないと指摘できる。また、保護者や教職員から養護教諭に求められる職務内容や要求が今まで以上に増加していることも示唆される。養護教諭は救急処置にとどまらず慢性疾患を持つ児童・生徒にも対応もせざるを得ない状況になり、ますます高度な養護判断や対応が必要である。そこで、看護系大学で養護教諭養成課程において、養護実習履修した学生に対し、養護実習中に見学した看護技術項目、実施した看護技術項目をアンケート調査し、学校現場における児童生徒の傷病の実態、それに対して養護教諭が使用する技術の把握を試みた。

## 3. 研究の方法

看護系大学の養護教諭養成課程で2013年及び2014年に養護実習を履修している学生に対し、「臨地実習において看護学生が行う基本的な看護技術水準」をもとに、研究者が作成した独自のアンケートを用い、養護実習中に見学した看護技術項目、実施した看護技術項目をアンケート調査した。調査対象者は調査の趣旨に賛同してくれた2013年度27名、2014年度23名の合計50名である。

調査方法はアンケートへの記述とした。厚生労働省医政局看護課「基礎看護教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書の「臨地実習において看護学生が行う基本的な看護技術水準」および先行研究を参考にして、研究者らで独自の『養護実習経験項目アンケート』を作成した。本アンケートでは、学校現場で使用すると予想される看護技術を(1)環境を整える技術、(2)食事援助、(3)排泄の援助、(4)活動と休息の援助、(5)清潔・衣生活の援助、(6)呼吸・循環を整える技術、(7)創傷管理技術、(8)与薬の技術、(9)救命救急処置、(10)症状・生体機能管理技術、(11)感染予防技術、

(12)安全管理技術、(13)安楽確保の技術、の13のカテゴリに分けた。そして、70の技術項目を策定し、各カテゴリに属すると判断できる技術項目をそれぞれに割り当てていった。また、われわれが当初予想していない技術項目が実習中に用いられることもあると予想できるため、自由記入欄も設けることにした。この『養護実習経験項目アンケート』を養護実習生に配布し、各技術項目で養護実習期間中に実習で1回でも、見学もしくは実施、あるいは両方経験した場合に「 」をつけてもらうこととした。回収したアンケートについては、13カテゴリごと、養護実習経験項目70項目ごとについて単純集計を行なった。

#### 4. 研究成果

##### 調査の結果

今回の調査結果から、学校現場で用いられている看護技術と学生が必要と感じる看護技術は特定の項目に集中していることが明らかになった。それは、「呼吸循環を整える技術」カテゴリのうち、【冷罨法(氷枕)】、【冷罨法(アイスパック)】、「創傷管理技術」カテゴリのうち【創傷処置の観察】、【創傷の洗浄】、【創傷の消毒】、【創傷の保護(カットバン、ガーゼ)】、【包帯法(巻軸帯)】、「救命救急処置技術」カテゴリのうち、【止血】といった項目があげられ、総じて創傷に対する外科的処置が多かった。これは、今回の調査対象である養護実習先はほとんどが小中学校で占めていたため、校種の特性から見れば発達段階として運動量が多く、危険に対しての自己対応力が未熟である児童生徒が多くいるためと考える。

また、「症状・生体機能管理技術」カテゴリでは、【脈拍測定】、【体温測定】、【症状病態を正確に確認】、【観察した症状、アセスメントの記録と報告】といったものが多く、気分不良などの内科的訴えに対して、

バイタルサインや症状病態の確認や観察が必要であるため対応として挙げられたものとする。

さらに来室する児童生徒の処置を行うにあたり、感染防護の観点からは、「感染防止の技術」カテゴリのうち、【消毒・滅菌のうち適切な方法の選択】、【適切な手洗いの方法】が多くあげられており、これは医療施設と同じく一処置一手洗いの原則は医療現場と教育現場とで同一の教育方法でよいことがわかった。

そして、体調不良の児童生徒が保健室で一時的に休養することがあり、この際の技術として、「安楽確保の技術」カテゴリのうち、【安楽な体位の保持】、【安楽を促進するケア】が挙げられている。これについては学校の特性であり、医療的処置と違い安楽にベースを置いた技術指導が必要と考える。また、児童生徒のメンタルケアとして、カウンセリング技術やコミュニケーション技術が大変重要であり、【精神的安寧を保つ工夫の計画】についてのカウンセリングマインドの技術指導も必要で、児童生徒の状況から判断し専門職者と連携する判断能力の養成も必要であろう。

今回、養護実習中に学校現場で養護教諭が用いる技術は、創傷管理技術カテゴリと症状・生体機能管理技術カテゴリにある技術項目であることが明らかとなった。上記の2つの技術項目を学校の保健室で特に必要とされる技術と位置付け、これを「養護看護技術」とした。本研究の結果により、将来的に大学における養護教諭養成課程において、創傷管理技術カテゴリと症状・生体機能管理技術カテゴリを中心としたカリキュラムを再考し、特に集中して学生をトレーニングすることが、学校現場において養護教諭が機能するための方法の1つであることが明らかとなった。

今後は「養護看護技術」の指導案の作成、問診の技術、指導、後に必要な事後措置と

の一連の動作を修得できるようなトレーニングも実施していくことが更なる課題である。また、養護実習中に経験する技術項目と、学生が難しいと考えて指導を受ける時間を増やしてほしいと判断する技術とは必ずしも一致はしていなかったが、実習中に経験していない技術が重要ではないとは言えない点を留意すべきである。養護実習では経験できなかった技術に対して頻繁に使用する技術とは異なった指導方法の検討も必要であろう。また、小学校、中学校、高校といった校種ごとに使用する技術項目や要求される技術も差異があることが予想される。そのため、校種ごとに養護教諭が必要とされる技術項目を分類すること、学校現場における特性を考慮した技術項目の検討も今後の研究課題である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計8件)

1) 湯浅美香, 中島敦子, 養護教諭に必要な看護技術の検討-熟練養護教諭へのヒアリングに基づく看護技術の分類-第6回日本セーフティプロモーション学会学術集会, 平成25年(2013)3月, 兵庫.

2) 湯浅美香, 吉田民江, 中島敦子, 川崎裕美, 養護教諭の救急処置活動で使用される看護技術の実態第60回近畿学校保健学会, 平成25年(2013)7月, 兵庫.

3) Mika Yuasa, Hiromi Kawasaki, Mika Nishiyama, Pete 'Angelo, Kotomi Yamashita, Analysis of Incidence Type of Injured Japanese High School Students and How to Improve Environments American Journal of Health Promotion, 平成26年(2014)3月, America.

4) 湯浅美香, 川崎裕美, 山下琴美, 本多容子, 山崎智子, 小学校保健室来室記録分析による子どもへの安全教育の課題, 第73回日本公衆衛生学会総会, 平成26年11月, 栃木.

5) 湯浅美香, 川崎裕美, 中島敦子, 養護実習に向けた集中トレーニングのための看護技術項目の検討, 第61回日本学校保健学会,

平成26年11月, 石川.

6) 湯浅美香, 川崎裕美, 本多容子, 看護技術調査から見た養護教諭養成課程における技術指導強化項目の確立, 第34回日本看護科学学会学術集会, 平成26年11月, 愛知.

7) Mika Yuasa, Hiromi Kawasaki, Mika Nishiyama, Pete D'Angelo, Susumu Fukita, Ayako Yamashita, Kotomi Yamashita, Satoko Yamasaki, Improving education in nursing skills & techniques required by school nurses in a junior high school environment, 18th EAFONS, 2.5.2014, Taipei, Taiwan.

8) Mika Yuasa, Hiromi Kawasaki, Satoko Yamasaki, Mika Nishiyama, Pete D'Angelo, Susumu Fukita, Kotomi Yamashita. Crisis management and disaster awareness of public School nurses; THE 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH, 8.20.2015, SEOUL.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

湯浅 美香 (MIKA YUASA)  
梅花女子大学・看護保健学部看護学  
科・講師 (現在の所属: 千里金蘭大学  
看護学部看護学科・講師)  
研究者番号 70583342

(2) 研究分担者

川崎 裕美 (HIROMI KAWASAKI)  
広島大学・医歯薬保健学研究院・教授  
研究者番号 90280180

登喜和江 (TOKI KAZUE)  
千里金蘭大学・看護学部看護学科・教授  
研究者番号 00326315

中島敦子 (NAKASHIMA ATUKO)  
梅花女子大学・看護保健学部看護学  
科・講師  
研究者番号 00583329

(3) 連携研究者

無